



## 子どもの声を聞く施策・コロナ対策緩和について

さとう たかお  
佐藤 貴雄 (民声クラブ)

### 子どもの声を聞く施策について

**問** 子どもに関わる政策に、子どもの意見を聞く必要性や重要性をどのように考えているか。

**答** (保健福祉部長) 子どもの権利が行き渡りつつあり、必要性、重要性ともに増えています。

**問** 子どもアドボカシーを具体化する子どもアドボケイトとは。

**答** (保健福祉部長) 子どもアドボケイトは、子どもの声を聴き支援する人で、子どもの意見表明を支援するために必要なものなので、設置を検討します。

**問** 子どもの権利に関する条例を制定すると、どのような施策を行えるか。市も子どもの権利に関する条例を策定してはどうか。

**答** (保健福祉部長) 条例策定は子どもの権利や子どもの生きやすさを市民で共有し、子どもの社会参加への契機になります。他市町村の状況を踏まえ、積極的に検討します。

### コロナ対策緩和について

**問** 感染症法の位置付けが5類に引き下げられると、市民生活や社会は、どのように変わるか。

**答** (保健福祉部長) 新型コロナ特措法の適用外となり、緊急事態宣言は出せなくなります。マスク着用は個人の判断です。

**問** 5類になると、学校教育現場はどのように変わるのか。

**答** (教育部長) 出席停止や学級閉鎖は法令に基づき、学校医と協議します。マスク着用は個人の判断です。

**問** マスクはみんながしてるからという同調圧力と、着けていけばいいという思考停止の影響を子どもたちも大いに受けた。今後は子どもたちの声を聞き意見を取り入れる対策をすべきでは。

**答** (教育部長) 自分で考え判断し、行動する機会を多く設定し、児童生徒の思いや意見を大切にします。



## 地域再生に向けての施策と対策について

たなか しんいち  
田中 伸一 (無所属)

### 本市の人口動態について

**問** 本市の人口と高齢化率は。

**答** (市民部長) 人口では、平成25年3月末で62,056人、令和5年1月末で55,163人と、10年間で6,893人減少、高齢化率では、平成25年3月末で28.7%、令和4年3月末で36%と、9年間で7.3%増加しています。

**問** 地域コミュニティの醸成は。

**答** (企画経営部長) 地域会議など話し合う場を設け、市民の各種相談を受け入れる体制を構築する必要があります。

### 移住・定住施策について

**問** 各種支援の成果と課題は。

**答** (企画経営部長) 本市への移住・住宅取得者に住宅取得補助や、子育て世帯への経済的負担の軽減に努めています。また、住みやすい環境の整備と支援拡充が求められます。

### 公共交通体系の在り方について

**問** 路線バス・乗合タクシー見直しの成果は。

**答** (建設部長) ルート変更等により令和3年と4年の比較では、安中市役所・松井田支所線は1,476人、間仁田・岩野谷線は295人利用者が増加しています。

**問** デマンドタクシー導入は。

**答** (建設部長) 路線におけるデマンド方式の午前への拡大やデマンド交通の通行地域の拡大は、既存のバス路線やタクシーへの影響が想定されることから、公共交通の抜本の見直しが必要となります。

### 農業振興と組織育成について

**問** 生産組織体の育成支援は。

**答** (産業環境部長) 地域の現状に則した組織体として、「人・農地プラン」を見直すなかで集落営農を軸に支援をします。